

2月8日の「立志式」で「今身に付けようとしている志」「将来の夢」「20歳の自分へ」を各クラスで選ばれし14人が堂々と発表しました。そして、みなが書いた「立志の作文」を「青春の塔」に奉納したあと、倉島校長先生から「昔は立志式を迎えたら大人の一員となった。今日を境に一步成長して、少し背伸びして行動してほしい。」と激励の言葉をいただきました。なお、今回の立志式について、翌日の「静岡新聞」にも掲載されましたので、ご覧ください。



今後の目標などを発表する生徒＝磐田市立豊田中

将来の夢や目標力強く

豊田中2年生125人が立志式

磐田市立豊田中は8日、2年生が将来の夢や目標を発表する立志式を同校で開いた。

2年生125人は各自の志を作文にし、事前に行われたクラスごとの発表会で披露。式では代表生徒14人が今後の人生への熱い思いを語った。

栗荆師が夢だという三宅恒さんは「人の気

に合わせて生徒に返却する。

倉島茂見校長は「昔は立志式を迎えたら大人の一員だった。今日を境に一步成長し、少し背伸びをして行動してほしい」と生徒を激励した。

生徒が書いた作文は同校内に設置されているモニター「青春の塔」に納め、成人式

兼古 蒼大 くん

僕は将来、人と平等に接することができる人間になりたいです。この世界は不平等です。勉強ができる人、運動ができる人、人それぞれ能力が違います。能力によって、他人からの評価も違います。能力が高い人と能力が低い人が差別されることだってあるはずなんです。僕は明らかにおかしいと思いました。努力しなくても勉強のできる人と、努力しても勉強のできない人がいたら不平等です。僕は努力しても成果が出ないことがよくありました。人が同じように努力しても、そこから生まれる成果は、不平等だと思いました。人が平等なら、全ての人に同じものが与えられる。そんなことをいっても、不平等なのが世の常です。平等という言葉はまやかして、不平等があるからこそ、今の世の中があると僕は理解しました。僕が社会に出て、人と人が関わる仕事に就けば、人を能力だけで判断せず、人と平等に接して生きていきたいです。

布川 奏向 さん

私の志は誰にでも優しく公平な態度をとることです。数ヶ月前までは、人に感謝される人になりたいと思っていました。しかし、感謝されるだけでは真の良い人とは言えないと思いました。また、職場体験では人と関わることを学びましたが、誰にでも優しくするのはとても難しいと実感しました。そして、今の考えになりました。将来は、この志を達成するために、人権運動に関わりたいです。まだ、日本は格差社会だと思っています。人は、ピラミッドでも、階段でもなく、全て満開で咲いている花畑のようなものだと思います。想像してみてください。そこには、高いところも低いところもないはずなんです。この格差をなくし、人間の多

様性を守り、少しでもよりよい社会になるために全力を尽くしたいです。そして、必ずこの志を達成します。

比留川 和真 くん

今、自分は、将来なりたい職業が決まっていません。しかし、将来、仕事をするためにできるようになりたいことはあります。私は職場体験で、工場で働く人の姿を見ました。迷わぬ手つきで、丁寧な仕事をする姿は、とても素晴らしいものでした。私は、その人たちが自信をもっているため、素早い動きで、迷わず作業ができ、責任感があるため、自然と丁寧に働くことができているのだと感じました。だから私は、自信と責任感を強くもつことが大切だと思います。今の私では、どちらももっていると答えることができません。そのため、何事も中途半端にせず、自信をもてるようにし、意見や行動に自然に責任感をもてるようにしたいです。

大石 華音 さん

私の志は、「想いやりがあって頼られる人、自分の行動で誰かを笑顔にできる人」であることです。中学生になって、地域探訪や職業体験など様々な活動を通して、磐田の人々の温かさや優しさを改めて感じる事ができました。また、大好きな音楽を通して、部員をまとめることの難しさや高め合っていくことの厳しさと楽しさを仲間と共に日々学んでいます。ですが、なかなかうまくいかないこともあります。時に意見がかみ合わず、傷つけたり傷つけられたり、悔しくて泣いたりすることもよくあります。そんな時、誰かが助けてくれる、話を聞いてくれるだけで、あきらめてはいけないと何度も思わされました。だから私も、悲しんでいる子、落ち込んでいる子を、自分の行動で励ましたり元気にしてあげたりしたいと思いました。それが私の目指す姿であり、常に心掛けていようと思うことです。そして、一番懂れている目標とする高校へ行くために、勉強や部活動に（投げ出したくなることもたくさんありますが）、あと一年全力で取り組みたいと思います。そして、高校生になったら、またそこでも大好きな音楽と、そこで出会える仲間と最高の高校生活を送って行きたいです。これから中学校を卒業して何をやっていくかは、まだわかりませんが、どこへ行こうと何でも一生懸命に自分らしく生きて、たくさん笑って泣いて、そして志である優しさをいつも心の中にしまっておき、幸せに暮らしたいです。今やっている勉強や部活は絶対に無駄ではないと信じて、これからも仲間と共に精一杯頑張っていきます。

高井 寛大 くん

僕の志は、まず三年生になって進学のための勉強を始めることです。今までは課題やあゆみの提出をいい加減にしていました。期日より自分のやりたいことを優先していました。「あとでやればいいや。」とか「眠いから今日は無理。」などと自分に都合のいいことを理由にして、勉強から遠ざかっていました。でも、中学三年生にもうすぐなるんだと思ったら、そんな甘えた自分のままではいけないと思いました。高校は将来を決めるための大事なステップです。そのために入学試験であり、今までと違い他校の中学生と同じテストに向かわなければいけません。だから、三年生になる今のうちから、自分自身のギアを上げていかなければいけないということに気が付きました。そして、努力をして自分の希望の高校に進学できればとてもうれしいことだし、もし仮に希望校以外でもそれまでの努力はきっと自分を成長させてくれるだろうと信じています。そして、できれば動物関係の仕事に就くことができたらいいなと、犬を飼い始めて最近思っています。

三宅 恒 くん

僕の志は、「今自分には何ができるか常に考えることができる人」になることです。僕の将来の夢は薬剤師になってたくさんの人を助けることです。僕は今、自分には何が足りないか考えた結果、自分で考えて行動することが足りていないことに気づきました。この志に近づくために、まず周りのことに興味をもちたいです。そして、自分には何ができるだろうと意識して生活していきたいです。意識することが自分の中で定着してきたら、それを行動に移し、もし周りの人が困っていたら助けてあげたいです。しかし、人の気持ちを理解していないと人を助けることはできません。だから、人とたくさんコミュニケーションをとってできるだけ良好な人間関係を作り、より人の気持ちを理解できる人間になり人として成長したいです。将来、薬剤師になったら、今まで支えてくれた人たちに感謝し、次は僕が周りの人たちを支えていきたいです。そして、周りから感謝の言葉をもったら、その言葉を励みに今後も人のために頑張りたいです。

青島 みなみ さん

私は、「人生楽しんだもん勝ち」という言葉が好きです。この言葉をいつ、誰が言ったのかわかりませんが、

きっと人生に何度も訪れるピンチをチャンスに変え、楽しんで乗り越えた人が言った言葉だと思います。だから私は、「何事も楽しもう」と日々過ごしていますし、大変なことにもチャレンジしています。そして、私の考える志は、「自分の意志をもち強く生きること」です。自分の意見をもつ、そしてそれを表現することは、これからの時代とても大切なことです。だから、何事にも自分の意見をもち積極的に表現していきたいです。また、強く生きるには、「負けない」「くじけない」「やりぬく」の三拍子が必要だと思っています。そんな意味を込めた「志」を胸に刻み、これからも自分らしく強く生きていきます。

芥川 優 さん

私の考える志は、「いつでも自分らしく」です。今までの私は笑顔にこだわり過ぎていました。そのとき私は、自分が笑顔でいれば周りの人も自然と笑顔になれると思っていました。しかし、何でもかんでも笑って済ませてはだめだと思い始めました。そのように考えているうちに私の志はだんだん変わってきました。そんなときに私はある曲に出会いました。その曲の歌詞は「人生は一度きり、がんばった分だけいつか笑える。泣いたって立ち向かっていけば自分好きになれる。」、こんな感じの内容でした。この曲に出会って、私は「一度きりの人生を無駄にしてはだめだ。」、そう思いました。一番ベストな自分、自分を好きになるためにも、常に自分らしくありのままであれば、最初に考えた志の「笑顔」にたどり着くと思います。誰もが遠慮しない、自分らしく生活できる暮らしにしていきたいです。

牧野 千瑛里 さん

私の志は「ブレないしんをもつ」です。私は志を何度か変えています。前の志には「笑顔」や「幸せ」という言葉が入っていました。ですが、考えてみると私はいつも笑っているし、毎日楽しくて幸せだから、この志は必要ないかなと思いました。そこで、私に足りないことは何かを考えてみました。それは自分の意見をあまり口にせず、周りにあわせてしまうこと、すぐにあきらめてしまうことでした。あとから自分の意見を言っておけばよかったと思うことがよくあります。自分の気持ちをしっかりと伝えることは、これから生きていく上でもとても大切なことだと思います。こんなすぐに人に流されてしまう私の悪い癖を直したいので、「ブレないしんをもつ」という志にしました。この志には、「周りに流されない」という意味の他に「自分で一度決めたことは曲げない。やると決めたことは最後までやり通す」という意味も込められています。そんな志をこれからずっと大切にしていきたいです。

梶田 朋伽 さん

私は立派な大人になりたいです。これはたくさんの方が思っていることだと思います。でも、立派な大人とはどんな人か、人それぞれ思いが違うと思います。私の考える立派な大人とは、しっかりと自立した常識ある人です。誰でも努力しなくても大人にはなれますが、立派な大人には誰もがなれるとは限りません。だから、「立派な大人になる」という志を立てました。自分の志をもつに当たって、まず参考になった活動が地域探訪です。理容師の方に「志を大きく立てなさい」とアドバイスをいただき、大きな志をもとうと決めました。次に未来授業では、介護士の方に、「感謝、感動、感激の三つを忘れないように」と教えていただいたので、人の行動から学び実行できるようにしようと思いました。しかし、周りの人に影響を受けているだけではいけません。自分も自分の意志で行動する必要があります。私は小学生の頃から、感謝する心を大切にしたいと思っていました。でも、もう中学生です。それだけでなく周りの人に感謝される人になりたいと思うようになりました。そのためにも自分や周りの状況を冷静に見つめて、何をするのがよいか考えて行動していきます。自分にとっても周りの人にもいい影響を与えられるような「立派な大人」になるべく努力していきたいです。

加藤 凜 さん

豊田中学校に入学して私は初めて「志」について考えました。それまで私の辞書には「志」という言葉はありませんでした。私の最終的な目標は、人を助けて笑顔に幸せにすることで、自分も笑顔になれるような医療関係の職業に就くことです。しかし、私はこれを「志」だとは思ったことは一度もありません。なぜなら、私たちはまだ中学生だからです。また、それは私の最終的な目標であり夢だからです。志とは目標を立てそれを達成することを言います。私は夢に向かって何かをし、それを成し遂げることが志だということに気づけました。その大きな夢を叶えるためには一つだけでなく幾つもの志を立てる必要があると思います。大きなことを初めにドーンと高い壁のように立てるのではなく、小さなことからポテポテと倒していくよう

な進み方がいいと、一年生の「ようこそ先輩」で教わりました。小さな志を数多くこなしていくことによって、絶対無理と思っていた大きなことが、その時では簡単にポテッと倒せてしまうと思うと、自分でもできるかもしれないと感ずることができました。そして、今までなかった自信をもってできるようになっていく姿が目に見えられました。これからこの大きな私の目標を達成していくために、中学のうちは「一つのことを極める」という志をもってたいです。そして、高校生になって新たな志を立てて目標を達成していきたいです。

倉嶋 萌 さん

私は6年生の卒業式の時、「信頼される人になる」という目標を立てました。その目標がこの中学校生活2年間で「志」に変わり、未来授業や地域探訪などを通して、その志について深く考えることができました。様々な体験をしてきた中で、山浦さんの言葉と職業体験が私の志への思いをより強いものにしてくれました。志タイムの時間で、山浦さんから「信頼貯金」という言葉を聞きました。「信頼される人になる」ためには、こつこつと信頼貯金をしなければなりません。それは一日でできることではありません。だから私は、信頼されるということがどのようなことなのかを考え、実践してきました。職業体験では、当たり前なことを当たり前にするれば信頼されると学びました。それは挨拶や返事をする事です。相手の目を見て笑顔で大きな声ですれば、だんだん信頼される人になることができます。でも、それをしないと、どんどん信頼貯金が失われていくことを知りました。だから、日々の些細な言動にも気を付けるように心掛けています。三年生になったとき、自分の周りの人だけでなく地域の方などからも「信頼される人」になっていられるように努力していきます。

寺田 樹生 さん

僕の志は、「人を信頼し感謝し、人の役に立つ人間になる」ことです。この志を立てたきっかけは、職業体験で新都市病院に行ったとき、病院では患者さんのために一つのチームとして働いていることがわかったからです。チームは一人一人がお互いに信頼していないと成り立ちません。チームで動くことは大人になる上で必要不可欠なものです。だから、今から信頼する力を付けたいと思いました。どんな職業でも、たくさん人が一つの商品に関わっています。原料を作る人、商品化する人、それを運送する人、売る人など。だから、常に感謝する気持ちをもってたいです。僕たちサッカー部の目標も「学校、地域社会に貢献するチーム」です。土日の練習では、15分間、溝の清掃など奉仕活動をしています。どんな些細なことでも、貢献できるかどうかを基準にして行動したいと思っています。さて、僕たちが大人になっていく上で必要なことはたくさんありますが、僕が一番大切だと思っていることは、一度犯した過ちをもう一度犯さないということです。同じ過ちを犯す人は、失敗から何も学ばなかった人です。そんな人は信頼をすぐに失ってしまいます。でも正直、僕もそうなったときがあります。学校生活でも私生活でもあります。今でもとても後悔しています。失敗してもいいが、同じことを繰り返さないためにも、常に考えて行動するようにしています。自分には経験も意識も欠けていることがたくさんあるので、それを少しずつ補っていき、自分の志である「人の役に立つ人間」に近づけるように努力したいです。

山口 桃寧 さん

私の志は、「常に自分の性格と生活に向き合って生きる」ということです。私が今所属している部活の先生は、いつも決まって「プレーには性格と生活が出る」と言っています。私たちがプレーをするたび、またそうでないときでも、先生はすぐ私たちに「お前はクラスにいるとき、こうなんじゃないか。」「こんなふうになっているんじゃないか。」と言います。何も動かずにたっていると「クラスでもリーダーに任せているだけで見ているだけだろう。」と的確に指摘されます。そう言われるたびに、私は「確かにそうだな。変えなきゃな。」と思います。これは部活だけでなく普段の生活でも、将来職に就いたときでもとても重要になると思います。初対面の人に会うときに、第一印象でその後の評価につながると思います。だから、よい印象を与えられるように普段から性格と生活について見直し、より良い自分でいられるように努めたいです。そして、このことを教えてくれた先生に感謝し恥じない生活をしたいです。何の職に就いても、このことを忘れずに、今まで関わってくれた人たちに恩返しできるようにしたいです。